

1 研究主題

自ら学ぶ力の育成

～「主体的・対話的で深い学び」の視点からの国語科の授業づくり～

〈主題設定の理由〉

自ら学ぶ力とは、基礎的な知識・技能を身に付け、それをもとに学びを広げていく力である。学びを広げるためには、よりよい生活の実現に向けて、日常の生活の中で自らが課題を見つけ、これまでの知識や経験と新たに収集した情報をもとに考え、追究できるようにすることが大切である。本校では昨年度より、国語科の研究を行っている。昨年度は、「身に付けたい資質・能力を明確にした単元構想の工夫」、「最適な言語活動の設定」の2つを通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善についての研究を行った。主体的・対話的で深い学びができる児童を育てるために、①単元計画表（構想図） ②ペア対話 ③言語活動の設定 ④読もっかへの投稿 ⑤伝え合うスキルの5つの視点による手立てを考え、学年、各チームで具体策を考えながら日々の実践の中で研究を進めていった。

一定の成果は見られたが、研究を進めていく中で課題も見えてきた。それは、研究授業に向けての事前研において、模擬授業を通して授業のねらいを確認したり改善点などを話し合ったりしたが、授業の流れを確認するのに時間がかかったり、チームで作りに上げてきた指導案に大きな改善点を伝えることが難しかったりしたことである。

今年度は、昨年度に引き続き、研究主題を「自ら学ぶ力の育成」、副題を『「主体的・対話的で深い学び」の視点からの国語科の授業づくり』として、学習指導要領に基づいた授業づくりについて研究を進めることとした。国語科の研究を通して、主体的・対話的で深い学びができる児童の育成を目指すために、今年度も5つの視点の強化と授業改善を図っていく。中でも、特に授業づくりに力を入れることとした。そこで、今年度は「授業づくり講座」の拠点校として、教材研究の際に、講師の先生や他校の先生にも参加していただき、多様な意見を出し合うことで、授業づくりについての力が付いてくると考えた。さらに、これまで実施してきた学びを明日からの実践に取り入れるためのレポートも続けていき、それを再び教職員に提示し、次の研究授業や日々の実践に生かすようにすることにより、研究授業と日々の授業や次の研究授業をつなぐ工夫をしていきたい。

また、研究内容は、「身に付けたい資質・能力を明確にした単元構想の工夫」「最適な言語活動の設定」「日常的な活動や環境づくり」の3つである。「身に付けたい資質・能力を明確にした単元構想の工夫」は、単元で付けたい力を明確にし、単元構想図を作成する。これにより、単元のまとまりを見通した学びや、「見通し」「振り返り」の場面を設定し、児童が主体的に学ぶ授業を想像していく。また、付けたい力が着実に身に付くような単元計画について話し合っていく。「最適な言語活動の設定」は、「言葉による見方・考え方」を働かせ、言葉で理解したり表現したりしながら自分の思いや考えを深めることができる言語活動を設定する。その際、対話の前に自分の意見を持たせたり、必要感や「身につけさせたい力」に結び付く明確な目的のある交流をさせたり、明確な目的のある「対話的な学び」の場面を設定し、考えを深めたり広げたりするための手立てを工夫したりしていく。

「日常的な活動や環境づくり」は、並行読書や発達段階に応じた読書の質と量を確保していくなどの読書活動の充実や、日々の日記や「読もっか」への投稿などの書く活動を継続して行っていく。また、授業や集会などにおいては、継続して「国府小版伝え合うスキル」を意識した発表などに取り組んでいく。さらに、授業で付いた力を確認するために、振り

返りをきちんと書くようにする。その際、「振り返りの書き方」を作成し、それをもとに全員が振り返りを書けるような手立てをとっていく。

2 校内研究体制

学校教育目標
自立できる子どもの育成
 ～かしこく やさしく たくましく～

研究主題
 『自ら学ぶ力の育成』
 ～「主体的・対話的で深い学び」の視点からの国語科の授業づくり～

	低学年チーム	高学年チーム
メンバー	1年・2年・3年 7年（教頭・養護・栄養）	4年・5年・6年・な1・な2 7年（校長）
授業研究日	3年 : 6 / 16 2年 : 12 / 8 1年 : 1 / 26	6年 : 7 / 7 5年 : 9 / 14 4年 : 10 / 27 な1 : 1 / 19 な2 : 10 / 13

体づくり部	心づくり部	技づくり部
テーマ【体力向上】	テーマ【学校生活】	テーマ【学力向上】
【取組内容】 ①望ましい生活習慣づくり 早寝・早起き・朝ご飯・家庭学習 ↓ 意識化（啓発・点検） ②体育・行事の改善 ③食育の推進 ④保健教育の推進 など 検証：体カテスト，生活点検	【取組内容】 ①読書活動の推進 ②異年齢集団による活動 ③人権教育の充実 ④規範意識の醸成 ルール徹底・あいさつ・整頓・環境整備・清掃活動 ⑤ハート通信・ハートコーナーなど 検証：Q-U調査 意識実態調査（北B）	【取組内容】 ①計画的な研究推進 （研修スケジュール・PDCAサイクル化） ②学習規律の徹底 ③評価の見直し ④必達基準作成・点検 ⑤家庭学習の充実 ⑥単元テスト ⑦音読 など 検証：学力調査

3 研究の構想

研究主題

自ら学ぶ力の育成

～「主体的・対話的で深い学び」の視点からの国語科の授業づくり～

【授業の中でめざす子どもの姿】

- ① 主体的に課題に取り組んでいる
- ② 自分の考えを、根拠を持って表現している
- ③ 友だちの考えを自分の考えや今までの学習と関連付けて聞いている
- ④ 自分の考えを深めたり広げたりしている

【研究仮設】

何を学ぶかという「目的意識・課題意識」を明確にした単元構成を工夫し、学んだことをもとにして自分の考えをまとめ表現する言語活動を授業の中に意図的に組み込んでいけば、学ぶ目的が明確になり、主体的に課題解決に取り組み、目的に応じて表現する児童が育つであろう。

【研究の内容】

- (1) 付けたい資質・能力を明確にした単元構想の工夫
 - ・単元で付けたい力を明確にしながら単元構想図を作成する。
- (2) 最適な言語活動の設定
 - ・言葉による見方・考え方を働かせ、言葉で理解したり表現したりしながら自分の思いや考えを深めることができる言語活動を設定する。
- (3) 日常的な活動や環境づくり
 - ・授業や集会などで各学年の「伝え合うスキル」を目指す。

【研究の方法】

- (1) 授業研究
 - ・1人1回の研究授業
 - ・講師を招聘して、授業力を高める指導の在り方などの研修を行う（校内の教員が務めることもある）。
- (2) 授業づくり
 - ・ブロックで指導案を作成し、事前研で単元構想、授業についての研修を行う。（講師を招聘、他校の先生の参加）
- (3) ブロック
 - ・学力を支える基本的な生活習慣や基礎学力の定着に向けた取組を進める。

【検証方法】

- ・教師間や児童による授業評価を行い、改善に生かす。
- ・校内研アンケートを実施し、取組を検証する。
- ・各種調査で児童の実態を把握し、実践に生かす。

4 研究内容と取組

授業改善を進めていくために、国語科の授業スタンダード、板書スタンダード、実際の板書等を確認する。

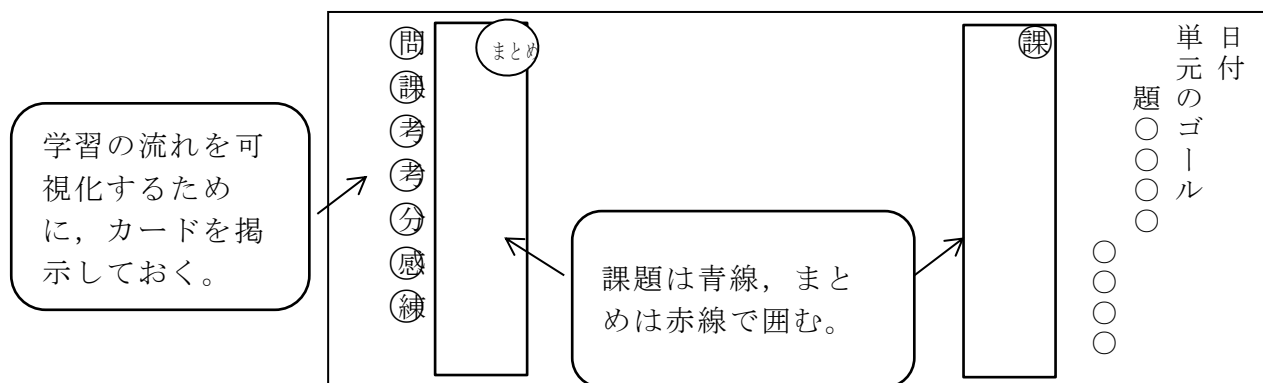
(1) 授業スタンダード

【国語科】

①授業スタンダード

	学 習 活 動	指 導・支 援
つかむ	○本時の「学習課題」をつかむ ・主体的に課題に取り組む	◇ 課題の工夫, 明確化 ◇ 視点の提示 ◇ 学び方の提示
考える	○目的を持って課題を追究する *確かに読み, 自分の考えを持つ ・読む活動→考える ・書く活動→考える ・表現する	◇ 読みの視点の明確化 ◇ ワークシートの工夫 ◇ 読む力や考える力を高める発問の工夫
深める	○考えを交流し, 広げ深める *自分の考えを, 根拠を持って表現する *友達の考えを, 自分の考えや今までの学習と関連付けて聞く ・話す・聞く活動 ・書く活動→表現する 再思考する	◇ 交流活動の場の工夫 ・ペア, グループ, 全体 ◇ 視点の明確化 ◇ 話し方の提示 ・スキル・マニュアル ◇ 深める補助発問, しかけ ・切り返し
まとめる	○本時の学習を振り返る *学びを共有する	◇ 板書に位置付け ・何がわかったか ・どうすることでわかったか

〈板書スタンダード〉



②単元構想図

<単元の構想> 単元名 テクノロジーの進歩について筆者の考えをまとめ伝え合おう
教材名 「弱いロボット」だからできること（東京書籍 五）

「弱いロボット」だからできること

☆多角的にとらえる☆

<(テクノロジー)の進歩について(筆者)の考えをまとめ
伝え合おう。>

学習の見通しを立てよう。

①ロボットの「強い」「弱い」って？「多角的にとらえる」って？

本文を読んで筆者（書き手）の主張を読み取ろう。

②「テクノロジーが見せる未来」を読み、書き手の主張を読み取る。

③『弱いロボット』だからできること」の文章構成図を作る。

④『弱いロボット』だからできること」を読み、「弱いロボット」の必要性について考える。

⑤筆者の主張を読み取り、自分でも「弱いロボット」を考える。

「強いロボット」と「弱いロボット」どちらがよいと思うか
議論しよう。

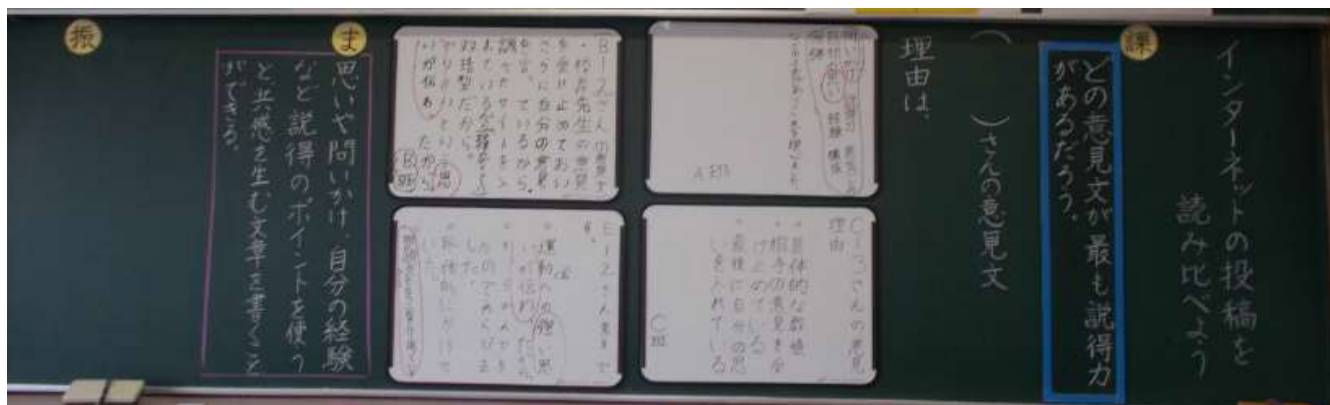
⑥「強いロボット」と「弱いロボット」で、どちらがよいと思うか
議論する。

⑦自分の立場を明確にしながら（ロボット）の進歩について話し合う。

「(テクノロジー)の進歩と(人間)の関わり」について交流
しよう。

⑧（筆者）の意見や（友達）の意見を参考にして、最終的な自分の
考えを書き、交流する。

③実際の板書



④研究内容の成果と課題

手立て	成果と課題
<p>1. 身に付けたい資質・能力を明確にした単元構想の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○単元構想図を用いたことで、児童が単元のゴールと付けたい力をいつも意識して授業に臨むことができた。 ○児童とともに作り上げる単元構想図にしたことで、児童が意識して見るようになり、より効果的に活用することができた。 ○書き込むだけでなく、資料を張り付けたり、授業の様子を張り付けたりしたことも効果的であった。 ○どのような単元構成にすれば付けたい力が身に付くのかをブロックはもちろん、授業づくり講座などを通して、学校全体や外部の先生と一緒に考えてきたことで、これまで見えなかった構成などに気付くことができた。 ○相手意識をもって授業を行うことで、そのためにはどんなことが必要かを考えて授業を展開することができた。 ○言語活動で身に付けさせたい力が身につくような単元構想を行った。 ○クロームブックを活用することによって児童が意欲的に取り組むことができた。
<p>2. 最適な言語活動の設定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○どのような言語活動にすれば付けたい力が身に付くのかを考え、リーフレットや解説書、音読（朗読）発表会やクイズなど様々な活動を取り入れることができた。 ○言語活動を取り入れるタイミングについても様々な見方から考え、習得してから活用するのか、習得しながら活用するのかなど、いろいろなアプローチの仕方があることを知ることができた。 ○他の学年へ発表を行うことで、相手意識をもって工夫して活動に取り組むことができた。 <p>△言語活動がワンパターンになりがちだったので、今後、児童が主体的に取り組むことができる活動を考えていく必要がある。</p>

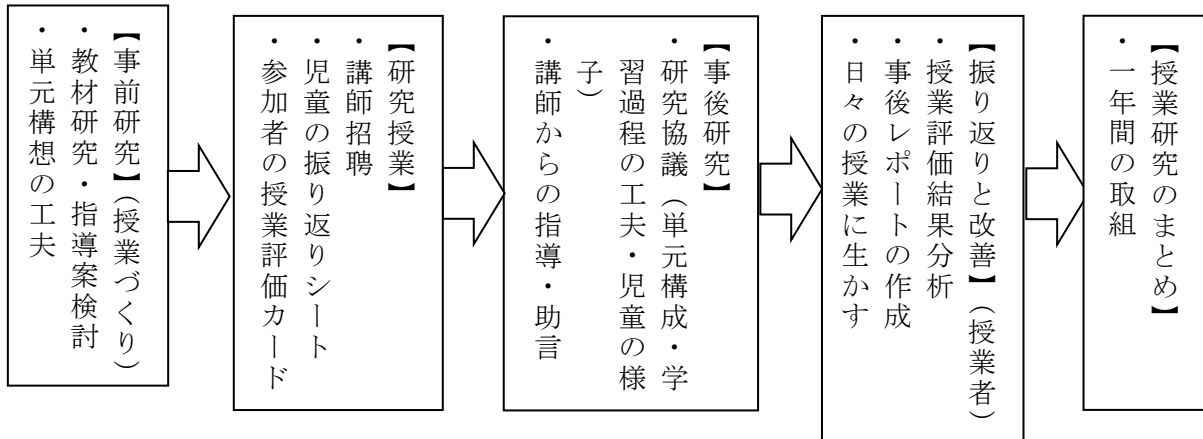
3. 日常的な活動や環境づくり

- 朝読書は集中して取り組むことができているし、本の内容も小説など活字のものが多く、読書の質は高まってきた。
- 朝読書や活動が終わった後に読書をするなど読書に対する意欲が高い。
- △たくさん本を読める児童とそうでない児童との差がかなりあり、目標冊数に届かない児童も見られるなど、読書の量としてはまだまだである。
- 日記などの文を書く際、ためらわずに書くことができるようになった。これは、書く活動を続けたこと、書くモデルを用意したこと、条件を出してそれを使って文を書くようにしたこと、書けたことを褒め、全体で共有したことなど、様々な要因がある。今後は、書く内容の質を高めていけるようにしていきたい。
- 「振り返りの書き方」を掲示したことで、短い時間でも集中して書けるようになった。
- 書くことが苦手な児童に聞き取りを行うことにより、文章を組み立てることが苦手でも会話の中からのいい言葉を拾うことができた。
- 登場人物の気持ちや振り返りなどの書く活動では、多くのことを書くことができるようになった。
- △振り返りの内容などには個人差があり、あまり書くことができない児童もいる。
- △振り返りの書き方を見ても自分の言葉で表現することができない児童もいる。
- まほろば集会では、「国府小学校伝え合うスキル」を意識して感想を発表することができたり、発表内容をみんなで考える時間を取ったりしたことで、発表の内容も声も質が上がってきている。
- まほろば集会では各学年の目標を意識して発表することができた。
- △学級ではあまり「国府小学校たたえ合うスキル」を意識した発表ができていないため、今後は学級から鍛えていくことが必要である。

(2) 授業研究

自分の思いや考えを伝え合い、高め合うには、言語活動が充実した授業づくりをしていかなければならない。そこで、今年度の校内研究では、国語科の授業研究を行うこととした。

① 研究授業から授業改善への流れ



② 事後研究の工夫

事後研究では、授業内容を共有し、全体で改善策を講じるワークショップ型の協議方法を取り入れている。

1分	司会 あいさつと講師紹介（簡単に）
3分	① 授業者より
10分	② KJ法で（付箋に書いて、グルーピング）→今回はマトリクス法。「良い点」「問題点・改善すべき点」について記入し、各グループで「問題点・改善すべき点」を中心にまとめる。
6分	③ 発表 2分×3グループ
10分	司会者「問題点・改善すべき点をふまえ、さらに、伝え合い高め合うための助言や手立てについて、意見をまとめてください。」 ④ 研究テーマに迫るための、助言・手立て（改善策）を付箋に書き（3分）グループで話し合う。（7分）
6分	⑤ 発表 2分×3 *発表は代わり合って
3分	⑥ 授業者より（明日からこれをします！などの気付き）
1分	⑦ まとめ（司会）
講師よりまとめと講話	
2分	⑧ 各グループからの感想（明日から取り入れたいことなど）



授業づくり講座（教材研1）



授業づくり講座（教材研2）



授業づくり講座（研究授業）



まとめたことをブロックごとに発表

(3) 研究経過【令和3年度】

月	日	内 容
4	2日(金)	今年度の研究内容・計画提案協議
	5日(月)	部会, チーム会からの提案
	14日(水)	授業研年間計画決定, 指導案様式・スタンダード・講師依頼計画
5	26日(水)	3年「パラリンピックが目指すもの」指導案検討(授業づくり講座) ※講師 中部教育事務所 渡邊指導主事
6	9日(水)	6年「インターネットの投稿を読み比べよう」指導案検討 ※講師 中部教育事務所 渡邊指導主事
	16日(水)	3年「パラリンピックが目指すもの」研究授業(授業づくり講座) ※講師 中部教育事務所 渡邊指導主事
	23日(水)	学力調査問題の分析
7	7日(水)	6年「インターネットの投稿を読み比べよう」研究授業 ※講師 中部教育事務所 渡邊指導主事
	28日(水)	5年『『弱いロボットだからできること』』指導案検討 ※講師 中部教育事務所 渡邊指導主事
8	25日(水)	なかよし2「よかったなあ」指導案検討
9	16日(水)	5年『『弱いロボットだからできること』』指導案検討 ※講師 安田女子大学 吉田教授
	22日(水)	4年「数え方を生み出そう」指導案検討(授業づくり講座) ※講師 中部教育事務所 渡邊指導主事
10	13日(水)	なかよし2「よかったなあ」研究授業 ※講師 小幡教諭
	27日(水)	4年「数え方を生み出そう」研究授業(授業づくり講座) ※講師 中部教育事務所 渡邊指導主事
11	17日(水)	2年「お手紙」指導案検討 ※講師 橋本教諭
	24日(水)	2年「お手紙」研究授業 ※講師 中部教育事務所 渡邊指導主事 なかよし1『『なかよしチャレンジすごろく』をしよう』指導案検討
12	15日(水)	1年「子どもをまもるどうぶつたち」指導案検討 ※講師 中部教育事務所 渡邊指導主事

	22日(水)	県版学テ採点分析
1	19日(水)	なかよし1 『なかよしチャレンジすごろく』をしよう」研究授業 ※講師 教育センター 伊藤指導主事
	26日(水)	1年「子どもをまもるどうぶつたち」研究授業 ※講師 中部教育事務所 渡邊指導主事
	17日(水)	標準学力調査結果分析・本年度の取組まとめ
2	2日(水)	研究のまとめの検討
3	10日(水)	漢字到達度確認，次年度に向けた提案・協議

(4) 成果と課題

今年度は、国語科の研究の2年目である。1年目の研究で学んだことをもとに、さらに研究を進めていくために、授業づくりに力を入れていくこととした。授業づくり講座の拠点校として、他の学校の先生や講師の先生からたくさんの多様な意見を出していただき、刺激を受けながら授業づくりについて研究を進めていった。これまでの授業中心の校内研ではあまり意識できていなかった単元の流れや言語活動の内容、付けたい力をどのように習得し、活用するのかなど、新たな視点で単元計画を考えることができるようになっていった。授業づくり講座で学んだことを、他の全校研でも活用しながら少しずつ単元全体を意識した単元構想ができるようになっていった。また、指導案の作成をブロックで行った。まず、授業者が指導案を作成し、その指導案をブロックで十分に検討し、教材研に臨むようにした。教材研では、授業者だけでなく、ブロックからの提案として単元の中の工夫点や迷っていることなどを提案し、学校全体で考え、教材研で出た意見をもとにもう一度ブロックで指導案を作っていくようにした。このことにより、授業者だけの指導案ではなく、ブロックの、そして学校全体の指導案とすることができ、授業者の負担を減らすことと全員が単元について学ぶことができた。

しかし、全ての研究授業において、全員が自分事として授業づくりに参加できたのか、もっと自分事として指導案の作成に関わることはできないのか、もっと単元について話し合い、指導計画について話し合うことができれば、もっと良い単元計画ができるのではないかと考えることもあった。

来年度は、国語科の研究3年目になる。着実に力が付いてきており、少しずつ付けたい力を意識した授業が展開できるようになってきている。研究の方向性は継続しつつ、さらなるレベルアップを図るため、ブロックで1回ずつ、1つの教材を低ブロックと高ブロックのお互いが提案し合い、より効果的なものを研究授業として行うようにしていく。それぞれのブロックが提案することにより、教材への理解が深まり、事前研や授業研でも自分事として考えることができる。また、ブロックで一から単元計画を考えることで、若年の教員は教材研究のやり方の理解が進み、ベテランの教員は新たな切り口、学びがあるのではないかと考える。国語科3年目の研究は、「みんなで作る」をキーワードに更なるレベルアップを図っていきたい。

5 「開かれた学校づくり」の取組

令和2年度から「開かれた学校づくり」を「学校運営協議会」と改め、コミュニティ・スクールの準備をしてきた。第2回学校運営協議会において、委員の方からは「授業参観では落ち着いた態度で授業に臨んでいた」「上級生になるにつれ、しっかりしてることが伝統となっている」といった意見が出された。今後、南国市教育委員会の指導を仰ぎながら、令和4年度からのコミュニティ・スクールの開始につなげていきたい。